



連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

パラリンピック・ムーブメント事例紹介



大分県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 (SCおおいたネットワーク)



<大分県>

オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、SCおおいたネットワークが実施しているパラリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

「総合型地域スポーツクラブ交流会」の取り組み

実施日時 平成29年11月23日(木) 9:30～15:30

実施会場 大分県立総合体育館及び運動公園

参加者数 総数1,300名(参加障がい者約70名)

車いすバスケ＝約20名

車いすテニス＝約20名

車いすロード＝約10名

卓球バレー＝約20名

主催 SCおおいたネットワーク

主管 総合型クラブ交流会実行委員会

共催 大分県教育委員会、大分県障がい者体育協会

後援 (公財)大分県体育協会、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、大分合同新聞、FM大分、大分ケーブルテレコム

協力 (公社)日本エアロビック連盟、大分県ラグビーフットボール協会、大分県スポーツチャンバラ協会、大分県卓球バレー協会、大分県山岳連盟、大分県障害者スポーツ指導者協議会、大分市食生活改善推進協議会、国立大学法人大分大学、日本文理大学、大分県立看護科学大学

1

企画経緯

大分県は、障がい者スポーツに関し車いすマラソンなど先進的な取り組みをしてきましたが、総合型地域スポーツクラブに障がい者スポーツを導入もしくは導入を積極的に推進している状況があまり見られない現状にあります。また、2020東京オリンピック・パラリンピックが開催されることが決まって以降、その機運の高まりや、その後のレガシーへの取り組みがあまり見られませんでした。

SCおおいたネットワークでは、これまで交流会やユニバーサルスポーツである卓球バレーの指導者講習会などを実施し、障がい者も含めたスポーツをキーワードとした交流の促進を図ってきました。これを契機に、本年度、NHK大分放送局をはじめとする多くの団体等の協力を得て、車いすバスケットボールや車いすテニス、車いすマラソンロードレーサーなど障がい者スポーツの体験や卓球バレーの交流など、障がいのある人もない人も共に参加できる交流会を実施しました。

2

企画内容

◆ 2006年から毎年開催 今回からパラ3種目実施

スポーツクラブ交流会は2006年1月に初めて開催され、近年では毎年11月23日に実施し、今回で13回目の開催となりました。パラ種目については毎回1種目程度でしたが、2020年を見据え今回から3種目(車いすマラソン、車いすバスケットボール、卓球バレー)に増やしました。

運営形態については、大分県障がい者体育協会、大分県障害福祉課を通じ各団体に具体的な指導を行っていただき、種目ごとにSCおおいたネットワーク交流会実行委員(県内各クラブ選出)のスタッフを配置し、種目運営および安全管理を行う態勢をとりました。

◆ 後援・協力各団体と緊密に連携

開催前には、県教育委員会、障害福祉課、健康づくり支援課、県体育協会、OBS大分放送、NHK大分放送局と連携会議を行い、全体運営についてはSCおおいたネットワークとして各部署でサポートできる内容について協議し開催しました。当日は、大分大学、文理大学、県立看護科学大学にも協力をお願いしました。連絡等については、SCおおいたネットワークが行いました。

パラ種目の運営にあたっては、やはり安全管理に注意を払いました。SCおおいたネットワークの実行委員と大学生合わせて約80名のスタッフを配置し、運営と安全管理を徹底しました。

◆ 大学生、県内各クラブからの人員派遣で実行委員会を形成

今回も大学生や県内各クラブからの実行委員の協力により、事故もなく終了することができました。運営にあたっては、救護員を配置し、ボルダリングやラグビー、スポーツチャンバラは各協会から指導者を招聘し、実行委員は安全管理を主に担う態勢をとりました。

この企画により、各クラブ実行委員と各協会の指導者が連携して行うことから交流が生まれ、それぞれのクラブでの教室展開を促すなどの相乗効果が生まれていると考えます。また、進行マニュアルなどを各クラブに事前にメールすることで同様のイベントの参考となると考えています。さらに、交流会ではクラブ活動紹介パネルコンテストを実施し、クラブの紹介をするとともにクラブの広報力向上の一助となるよう工夫しています。

◆ クラブ対抗玉入れ大会で交流促進

交流会の最後には、クラブ対抗玉入れ大会を実施し、フリー・シニア・レディース・ジュニアの 카테고리で行い、クラブ内での交流・協力を促すことにも貢献しています。さらには、県内各プロチーム(サッカー、フットサル、バレー)からグッズを、関係企業からドリンクなどを提供していただき抽選会を実施しています。本年度から同時に大分県の掲げる健康寿命日本一につながる健康診断や食生活への助言などを参加者が受けられるようにしました。

障がいのある人もない人も交流会に参加すれば、食や健康状況、スポーツ体験など健康に関することを数多く体験できるイベントになりました。

3 参加者・運営側の声

参加者の声(実施後)

- 障がい者だけでなく、みんなで楽しめるスポーツが体験できました。
- 車いすバスケの難しさがわかりました。
- 車いすマラソンのロードレーサーがあんなに速いと思いませんでした。
- 色々な人と交流できて良かった。

運営者の声(実施後)

- 障がい者の方の安全管理が大変だと思っていましたが、皆さん自分でできるので安心しました。
- 交流がうまくできるか心配しましたが、卓球バレーなど楽しく交流ができていました。

障がいのある方のスポーツ環境を考えると、支援学校等で障がい者スポーツやユニバーサルスポーツを部活等で行っても、卒業後はそれを続ける場所や機会がないことや、グループを作るにしても、人数が集まらないもしくは集まれないといった課題があるのではないかと感じています。また、大会やイベントを実施したくても審判をしてくれる人、運営に関わってくれる人がいないのが現状です。そのような人材の面での課題の解決や地域において障がい者スポーツを発展・普及させるためには、まさに総合型クラブの基本である「どこでも、だれでも」が求められているように思います。

今後は、この交流会がパラ種目も含めスポーツを楽しんでいただける「キッカケ」、さらには障がい者も含め、県民の皆様のスポーツをキーワードとした交流の場になればと考えています。同時に健康チェックや健康に関する食の部分も学びや体験ができるようにしたいと考えています。

この交流会をさらなる交流の場とすることも大事ですが、今回のイベントをきっかけにクラブごとの新たな交流の場づくりや地域の活性化につながることも目を向けていきます。また、卓球バレーなどのユニバーサルスポーツの大会を実施し、国際大会に発展させることができればと思っています。「2020東京」をキーワードとして、障がいのある人もない人も共に地域で活動できる場面を作っていくことが大切であると考えています。SCおおいたネットワークとしては、県内各総合型クラブがこうした活動に取り組めるようサポート(環境づくり)をしていきます。

(SCおおいたネットワーク 会長 丸山 順道)

連絡協議会プロフィール

設立年月日 平成21年6月

特 徴 県内各クラブの主体性に基づきクラブ間のネットワーク化を図り、魅力あるクラブづくりを促進するとともに、多くの地域住民がクラブライフを通して「健康・生きがいづくり、地域づくりに寄与する」ことを目的としています。

事務局 NPO法人MAKK笑人クラブ
〒872-1614 大分県国東市国見町岐部536（国見ふるさと展示館内）

連絡先 TEL 0978-75-4027
FAX 0978-83-0321
E-Mail makk2014@yahoo.co.jp

